

# 書写通信

姫路工業大学  
アメリカン  
フットボール部  
OB会報

## TO OLD BLUE

### 2001

### 第9号 [春号]

2002年05月05日

編集責任者 田中 角栄  
吹田市津雲台 3-2- A11-304

## 2002年新チーム始動

2001年度のリーグ最終戦で関西外語大語に惜しくも敗れ、Blue Linersはリーグ優勝・2部昇格という目標を掴むことができなかった。そしてその逃してしまった目標を再び掴みとるべく、2002年度の新チームが3月から練習を開始した。

1999年をピークに部員数は年々減少し、今年の新チームは昨年4回生を卒業で欠き、2回生以上が15人という状況となった。そんな厳しい状況の中、今シーズンのチームは、“2部昇格”という昨年叶えられなかった目標をもう一度掲げ、この目標に向けた活動を行っている。

3月の練習では、フィジカルトレーニング・ファンダメンタルトレーニングを中心とした練習を行い、チーム戦力のレベルアップを図った。特に新2回生のほとんどが昨年の試合に出場しておらず、彼らの経験不足を補っていく事がシーズンインするまでにクリアしなければならない最重要項目となっている。

そしてその調整を目的として5月以降に他大学との練習試合を予定しており、これに向け主将・幹部を始め選手・スタッフ共、日々試行錯誤を繰り返している。



シーズンオフの間、新幹部は攻撃力をアップさせるための検討を行い、プレーにオプションを取り入れ、これを中心とし展開する攻撃スタイルをとることを決定した。そして4回生QB壺井を中心とした取り組みを行っている。QB・FB・TBには経験豊富な4回生がいることで、この攻撃スタイルの確立にも期待が持たれている。



3月末に行われた姫路獨協大学とのスクリメージで何度かプレーを行い、ヤードを取れる武器となることは確認できたと思われるが、これを中心とした組み立て・スタイルを確立するにはもう少し時間が必要であるように感じられた。

4月に入りチームの活動は、部員数を補充するための新入生勧誘活動が中心となった。入学試験や合格発表・そして入学式に会場で待ち伏せして勧誘を行ったり、イベントごとを催したりとあの手の手を使って新入生確保に努めている。その甲斐もあってか、現在十数名の新入生がブルーライナーズへの入部をほぼ決定しているようだ。野球経験者、柔道経験者、中にはラグビーで花園へ出場したというものまでいて、期待が持てるような人材が多く集まりそうである。ブルーライナーズへ入部し、この秋シーズンのリーグ戦で彼らが活躍することを是非とも期待したい。そして、そんな新入生に上級生が触発されチーム全体として大きくレベルアップすれば、チーム目標である「2部昇格」が現実のものに変わっていくだろう。

## 6人数制フットボールについて

関西学生フットボールの登録選手数は、94年から97年をピークにして、年々少子化によりその数が減少していった。昨年には、全56大学中6大学が連盟規定人数の20名に満たないため、リーグ戦がオープン参加となってしまった。そして、今シーズンは更に規定人数に満たない大学が増えていく傾向にある。

この傾向は関西だけでなく、日本全国で発生している問題とであり、登録部員数が国内最多の関東学生連盟でも同じ傾向があった。このため関東学生連盟では数年前から7人制フットボールリーグを構成し、規定人数に満たない大学はこのリーグに参加することとなっている。関西でもこういった対策を実施せざるを得ない状況となり、今シーズンより6月末時点で連盟登録部員数が20名に満たないチームは、6人制リーグへの参加することが決定した。ただし、この6人制リーグへの参加は強制ではなく、リーグ戦参加を辞退することができる。このあたりは各大学の方針により決定するものである。

この6人制フットボールは、米国で70年以上の歴史があり、数多くのNFLのプロ選手を輩出してきた。グラウンドの大きさはちょうどタッチフット程度の広さで、ボールや防具は11人制と同じものを使用する。ルールとして11人制と大きく違うところは

- 全員にレシーブ件がある
- ・エクスチェンジされた選手(QB)がそのままボールをもってスクリーミングラインより前に出ることはいない
- ・フィールドゴールは4点
- ・TFPIはキックが成功すると2点、プレーでエンドゾーンに持ち込むと1点

と微妙な違いがある。特にキックで得点することが難しいためフィールドゴールなどの得点が高くなっている。また、全員にパスレシーブ権があることなどから、かなりの体力が要求されるゲーム展開となる。

現在のブルーライナーズは2年生以上が15人で、新入生の入部状況次第では、この6人制リーグへの参加を余儀なくされる。しかし、選手たちの勧誘活動の成果もあり、現在10名以上の入部が見込まれている。そして秋には、11人制リーグに参加しリーグ優勝・二部昇格という目標に向け活動中である。

## OB戦のご案内

昨年までOB戦を5月のゴールデンウィーク中に行っていましたが、今年は5月18日(土)に開催します。皆様ふるってご参加ください。

日程 : 5月18日(土)  
時間 : 14:00キックオフ  
場所 : 姫路工業大学グラウンド

なお、試合終了後、懇親会を開催します。こちらの方への参加も宜しく願います。

## OB会費について

2002年度のOB会費を5月18日のOB戦当日に集めさせて頂きたいと思っております。OB会費を銀行口座振込できるようにしていますので、当日参加できない方はこちらの方へ是非願います。

### (振込先)

銀行名 : 住友銀行(旧さくら銀行)  
口座番号 : 451-8185894  
姫路工業大学アメリカンフットボール部

尚、2001年度のOB会費会計報告をOB戦後の懇親会の際にご報告いたします。

## 今春の試合予定

- 5月18日(土) **OB戦**  
於: 姫路工業大学グラウンド
- 5月26日(土) **大阪経済大学**  
於: 姫路工業大学グラウンド
- 6月15日(土) **京都外国語大学**  
於: 京都外国語大学グラウンド
- 7月6日(土) **大阪大学**  
於: 大阪大学グラウンド

日時・場所について変更する場合があります。決定次第、メール・インターネットを使ってご連絡します。

## 監督交代のお知らせ

平素は、ブルーライナス発展のためご尽力いただき誠にありがとうございます。昨シーズンは、あと一步のところまでリーグ優勝を逃し、優勝校は2部リーグへの昇格を決めました。選手の努力のお蔭で近年幾度かこのようなチャンスに恵まれながら最終的には望んだ結果が伴わないこと、OB諸兄に嬉しいお知らせができなかったこと心苦しく思っております。

本来ならば、更なる努力をもって新チームとともに悲願の2部昇格に向けてスタートを切る御報告をしなければならないのですが、昨シーズンをもちまして、姫路工業大学ブルーライナスのスタッフから退くことになりました。平成10年から昨年まで4年間コーチを経験させていただいたことで、色々な勉強をさせていただき、私にとって非常に貴重な体験になりました。私が教えた選手の皆さんには、厳しい注文ばかりつけ肉体的にも精神的にも追い詰めたことがしばしばありました。非常に辛い経験になった方もいらっしゃるかと思われます。私自身、コーチとしての資質や素養に乏しい至らなかったことは確かだとは思いますが、私としてその時々のできる精一杯でした。時が経ち、思い出になる頃、笑って許して頂ければ幸いです。

4年間、再度ブルーライナスに携わり一番感じたことは、ブルーライナスを構成する人間の素晴らしさです。素直に、一生懸命に、フットボールに取り組む姿勢です。決してスマートではありませんが、泥臭い努力に努力を重ね、胸を張って強豪に立ち向かう選手たちの姿に言葉にならない感動を幾つも見られました。また、私も存じ上げなかった多くのOBの皆さんや若いOBが、熱いハートを持って声援してくださる姿に、ブルーライナスのあたたかい一体感を感じました。本当にありがとうございました。新しい監督には、田中角栄君がなってくれます。私よりも4年若い面倒見の良い好青年です。最近の大学生のスポーツ離れや、数年後の兵庫県の県立大学統合といったフットボール以外での舵取りを見据えた監督スタイルを余儀なくされるでしょうが、ブルーライナスらしく一步一步着実に進んでいって欲しいと思います。

ブルーライナスの中興の祖ともいうべき匠前監督には、何から何までお世話になりました。匠さんが居なければ、私は姫路工業大学でフットボールに携わることも無かったと思います。素晴らしい時間が過ごせました。加えて姫路工業大学とは元々縁のない鈴木アスレチックコーチや坂野コーチの熱血指導には非常にチームは助けられたと思います。ブルーライナスを創る全ての皆様に感謝の念で一杯です。これからも、ブルーライナスを応援して行きます。頑張ってください。

平成13年度監督 金谷 祥治  
(平成4年機械科卒)

## 編集後記

ブルーライナスを取り巻く環境がまたひとつ変わってきました。部員数が少ないチームは6人制フットボールの別リーグに組み込むという関西学生フットボール協会の決定です。関西でのフットボール人気は群を抜いています。やはり少子化の波が2部、3部リーグ所属のチームへの慢性的な部員不足という重いプレッシャーを与えているのだろうか。どうも少子化だけが原因ではないようです。姫路工大に関しては近年学部が3つに増加し学生数自体は増えており状況は過去からみれば良くなっているはず。しかし肌で感じることは最近の若者の質的なもの、別の言い方をすればキャラクターです。うまく言い表すことができませんが、みなさんも職場でジェネレーションギャップを感じることはないでしょうか。今の現役の選手達も勧誘の場では新入生と話すとき驚くことがあるようです。フットボールに限らず何かに情熱を燃やして取り組む学生は本当に少なくなっているとのこと。かく言う私も勢い勇んで部室の門を叩いたのではなく成り行き入部の身で偉そうなことは言えませんが、ただ一端チームに入ってしまったら自覚と責任は後から付いてくるものです。事実、現役選手、在学OBコーチは我々の現役時に劣らない情熱を持っていました。最終学年が終了したとき本当にやっけて良かったなと思えるチームであることを伝えて多くの新入生を獲得して欲しいです。(匠)

## 昔の俺、今の俺



こんにちは平成3年電気工学科卒業の伊藤忍です。前回のOB通信での多田君のリクエストにお応えして今回のOB通信に投書しました。(多田君、お久しぶりです。素敵な家族に囲まれ幸せそうで何よりです。またチロリン村にメシ食いに行こうな！)

現在、私は川崎重工業(株)の社員として発電プラント関係の仕事に従事しています。月日が経つのも早いもので、卒業してからもう11年になります。

普段は勤務地の東京で設計業務に悪戦苦闘の日々を送っていますが、現地での試運転が始まると数ヶ月間の出張が続きます。仕事はなかなかハードですが、出張期間の休日には 地元の観光地巡りや郷土料理の探索など結構楽しんでます。

さて、私の現役時を振り返ってみるとチームの雰囲気としては部員数も少なかったせいもありますが、先輩・後輩とも仲が良く個性的な人間もいましたので、練習以外の行事でも盛り上がり、楽しかった思い出がたくさんあります。(これもチームの魅力でした。)

当時の私のポジションは主にラインバッカーでした。ラインバッカーとゆうポジションはランプレー時にはオフェンスラインとの対峙、パスプレー時にはパスコースのカバー、フェイクプレー時には素早い反応と対応など、難しいポジションだと思います。(勿論、他のポジションも難しいと思いますが。) そのような難しいポジションをこなすためにまず私は自分への課題として“コンタクトの強化”を挙げ、相手に当り負けしないよう常に心掛けて練習に取り組んでいました。

チームの目標も然りですが、現役の方には各々の向上意識を確立し、それを継続して頂きたいと思えます。このような意識を継続するのは難しいと思えますが、日々の練習や試合、またはテレビを観て「こんなプレーがあったのか!」「自分もこんなプレーをしてみたい!」など感動を受けると意外と意識も継続するものです。常に自分なりのセンサーを張り巡らしててください。不甲斐無い1OBの希望を述べたようですが、常に向上意識を継続しながら金谷監督をはじめチームスタッフの素晴らしい指導のもと練習、試合に取り組んでいると良い結果に結びつくと思えます。遠方より期待していますので、是非目標を達成してください。

また、皆さんはそれぞれ思いを持って姫路工業大学に入り、ブルーライナーズに入部したと思えますが、卒業しても楽しかったこと、辛かったこと、そしてチームの一員であったことをいつまでも思い返せるよう貴重な学生生活を送ってください。

最後に現役、チームスタッフ及びOBの方々のご健康と今後のご活躍を祈りこの投稿を終わりたいと思えます。

次回は私が入部した時、主将をされていた岩谷さんをお願いしたいのですが如何ですか?